



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

加速する情報化社会の中で

座間市では、児童・生徒・保護者の皆様を対象に、情報モラルの実態調査を行っています。今年度も御協力いただきまして、ありがとうございます。学校診断レポートが届きましたので、お知らせします。本校の児童の実態として、次の3つの特徴があげられました。

- ・肖像権や個人情報に関する正誤問題に関して正答率が低い。
- ・メールやLINEで不安や嫌な思いをしたことがあると回答した割合が増加している。
- ・家庭でのルールに関して、「保護者と話し合っただけ」と回答した割合が増加している。

今回の調査では、課題も示されましたが情報機器を使うことによるルールについて御家庭の中で話題にあげ、子供たちと共にルールを話し合っただけということが増加しているという、よりよい結果が示されました。インターネットの普及により、大量の情報が瞬時に入手できる環境が瞬く間に整備され、情報化は社会のみならず、家庭や個人の生活に大きな変化をもたらし、今や必要不可欠なものになっています。情報化社会が加速している今日、子供たちにとってもスマートフォンやSNSを活用することはもはや止められない状況にあるのではないのでしょうか。そのような中、利用するにあたって基本となるルール決めについてのよりよい結果が示されたことは嬉しいことであり、今後も御家庭の中で意識的に話

題に取り上げていただきたいと思います。

2020年に実施となった学習指導要領（全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう文部科学省が定めているカリキュラムの基準。10年に一度改訂されるもの）が、資質能力の育成の視点で見直され、情報活用能力も整理されました。その中の一つに情報モラルも引き続き位置付けられています。今回の調査であげられた2つの課題から、情報モラルとして、自他の情報の大切さと権利の尊重の学習と共に、インターネット上のコミュニケーションの注意点やマナーを守ることにについて学習する必要があると考えています。今学期中には、外部機関とも連携し、昨年度に引き続き、5・6年生を対象に情報モラル教育を行う予定にしています。情報機器を扱う上で、配慮しなければならないことについて、再度振り返り、考える機会としていきたいと思います。

情報モラルは、日常のモラルを情報化社会に広げて適用していくものであり、道徳教育との繋がりで捉える側面もあると考えています。「親切・思いやり」・「礼儀」「友情・信頼」・「規則の尊重」等、道徳の時間で学習する様々な内容項目の学習を核としながら、学校教育全体の中で道徳性を養い情報化社会の中で生きて働く力となるよう引き続き子供たちを支えてまいります。

情報化社会が加速する中、今後も情報モラル教育について推進していくことは必要であると考えています。そして、推進する上で、御家庭の力は大きな力となります。学校と家庭と連携し、子供たちをよい方向へ導くよう努めていきたいと思っています。